

西宮神社の船渡御が跳ね橋を通過する(上)。いつもは中央部は下りている(下)。橋は10月いっぱい、午前10時、正午、午後3時、同5時、同6時20分に開閉される ー共に西宮大橋から写す

はんしん
写真・文 山田哲也

52



開かない
観光資源

西宮

9月23日、西宮神社の船渡御が御前浜橋に差しかかった。橋はゆっくりと二つに開いた。西宮市街地(西宮市西波止町)と西宮浜埋め立て地(同市西宮)を結ぶ御前浜橋は、通称「跳ね橋」と呼ばれている。週末は約3千人の通行者があり、生活道路になっている。阪神大震災で東側の西宮大橋が通行止めになり、今の御前浜橋が架かる場所に仮設道路を造り、西宮浜との交通に用いた。西宮大橋の復旧後に撤去された

跳ね橋(御前浜橋)



が、地元からの要望などで跳ね橋として99年6月に開通した。跳ね橋と言っても平日は閉じたまま。土日祝日の1日4回(5月~10月は5回)開くだけで、橋が開いた光景を見る機会は少ない。定時になると橋は両側からワイヤで引き上げられて開く。作業時間を含めて20分間開くことになっているが、船の通行がないと約12分で閉じる。大型ポットやヨットの通行のため、橋の中央部が二つに分かれて開く跳ね橋にしたが、隣の西宮大橋の下を通過して外海に出られるので、開いている時間に通過する船は、年々減少しているという。御前浜橋は税金の無駄遣いと批判を受けている。開かない「跳ね橋」ではシャレにもならない。観光資源として利用するなど、アイデアを出して橋を維持してもらいたい。阪神西宮駅より阪神バスで西波止町下車。南へすぐ。